

春風秋霜

3月号

平成27年3月2日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 人事異動を控えて

今月中旬には異動の内申があります。異動は教員にとって自分自身を振り返るいい機会です。新しい学校では、校長も学校経営方針も違います。新しい組織の中で働くことになり、新たな気持ちで取り組むことが求められます。

異動は、静西教育事務所管内の過員・欠員状況や生活転などが優先され、その後に校内体制や個人の希望を考慮した異動が行われます。そのため、すべての職員の異動希望が叶えられるわけではありません。時には、まったく経験のない行政職や校種変更をはじめ、遠隔地への異動をお願いする場合がありますが、ご理解をお願いいたします。

教職員は、経験を増すにつれ、校内外で求められるものが多くなります。異動の有無に関わらず、これまでと同じという意識ではなく、ライフステージに合わせた目標をもっていただきたいと思います。

今年度をもって退職なさる皆様には、島田市の教育に長く貢献していただいたことに心から感謝申し上げます。教職員は退職しても地域からその能力を期待されます。今後の地域貢献や学校へのサポーターとしての活躍を期待しています。

2 県中部私立幼稚園研究大会に参加して

2月4日におおりで幼稚園の研究大会が行われ、5地区の研究実践発表がありました。私には私立幼稚園で研究活動が行われているという認識がなかったので、発表内容に小学校として生かしていかななくてはならないことがあると思いました。

一例を挙げれば、縦割り活動に力を入れている幼稚園において、年長児が年少児の着替えを手伝ったり、給食の配膳をしたりしていることが報告されました。小学校では新1年生の面倒を6年生が見ることを普通としていますが、幼稚園でできるようになっていることを6年生が手伝う必要はありません。個人差が大きいので支援が必要な子供もいると思いますが、どのように支援するかを再検討する必要があると思います。

市教委で応募した研究論文の中に、幼稚園と指導項目を共有して成果を挙げたという実践がありました。今後、幼保小の連絡会が行われると思いますが、情報の引継ぎだけでなく、互いに授業を参観したり、家庭への関わり方を共有したりということも考えていただきたいと思います。

3 文化協会との懇談について

2月12日に教育委員と文化協会役員と懇談しました。文化協会の皆さんからは、協会の活動をより市民に近いものにしたいたいとの思いが語られました。写真を楽しむ皆さんからは、これまでの県外の名所の写真から市内のビューポイントを題材にした写真に力を入れたいという話を聞きました。写真の展示だけでなく位置情報も示せば、市内の人たちにも市内のよさや写真の撮り方に興味を持ってもらえると話していました。

話し合いの中では、次世代の育成にも触れ、協会内の様々な特技を持った方々が、地域や学校に出向いて技を披露することも提案されました。協会の皆さんの悩みの一つに発表の場が少ないということがありました。これは、各学校の授業や和 문화活動において、地域人材の活用につながる話だと思いました。絵画や書道・音楽だけでなく、俳句・川柳・陶芸・版

画など、文化協会には多くの団体が登録され、多様な活動を行っています。地域人材の活用と言う視点で文化協会を考えてもいいと思います。

4 才能について

月刊『ファミリス』1月号に、診療内科医の海原純子さんの「大切にしたい才能とは…」という記事がありました。いい結果を出すことが才能ではなく、努力することが嫌ではないことが才能であり、教師や親が大切にしなければならぬ才能だと述べています。

平成25年12月の教育委員会の提言で示した、結果より頑張りを褒めた子供の方が良い結果を出すということと重なると思いました。ぜひ、全文を読んでもらいたいです。

5 今、諏訪原城が熱い

2月1日に加藤理文氏の『諏訪原城講演会』が行われ、2月24日には静岡大学小和田哲男教授と春風亭昇太師匠の『「徳川家康と東海道の城」レクチャー&トークショー』が行われました。どちらも諏訪原城は、戦国時代の城には珍しく、原型をとどめた貴重な城という価値付けでした。以前、加藤氏は、「諏訪原城は日本の山城ベスト10に入る」と言っていましたし、文化課の担当者からは沖縄からも見学者があったと聞きましたから、この価値を十分に認識していないのは、私たち地元住民かもしれません。

2月25日には、教育委員で発掘現場の見学をしました。4月に見学した時と比べ、着実に整備が進んでいました。堀は、昔の状態を保護するために、実際より2mほど埋めてあるので、斜面がなだらかになっているという説明でしたが、それでも堀の縁に立つと降りるのが怖くなるほどの深さがあり、ベスト10の価値を知りました。先生方にもぜひ諏訪原城を見学していただきたいし、子供たちにも島田の貴重な財産を紹介していただきたいと思えます。



本当はもっと深かった二の曲輪外堀

肘かけ椅子

渡辺 武資 図書館課長

「徳川家康と東海道の城レクチャー・トークショー」を聞きました。会場の夢づくり会館ホールは超満員、開演前から大変な熱気に包まれ、公演も小和田哲男先生の明解なお話と春風亭昇太師匠の軽妙なトークにより盛況の内に終了しました。

どうして、現代人は戦国時代にこうも熱狂するのか。戦国時代は、言うなれば殺戮の時代であり、日本史上最も悲惨な時代であるはずですが。しかしながら、現代人は、戦国時代に思いを馳せ、ロマンすら感じてしまいます。

戦国時代を題材にした物語や小説がたくさん書かれ、映画やテレビドラマも数多く作られ、そこには英雄たちも存在します。戦国時代は、現代人にとって一番身近な歴史なのかもしれません。しかし、殺戮・悲惨な時代であるなら、いくら小説を書こうが、ドラマを作ろうが、人々から拒否されてよいはずですが。

公演の中で、静岡県内には約800の城跡があるという話がありました。島田市にも、諏訪原城をはじめ湯日城、当日はじめて知りましたが野田城もありました。戦国時代は400年前の昔と言いながら、我々の身近なところには、まだその遺構が数多く残されています。戦国時代の遺構は、悲惨な時代であるがゆえに人々が懸命に生き抜いた証であり、尊い財産です。

我々は、戦国時代と現代社会を重ね合わせ、時として自らに警鐘を鳴らすことも必要なのかもしれません。